～美味しい水を目指して～

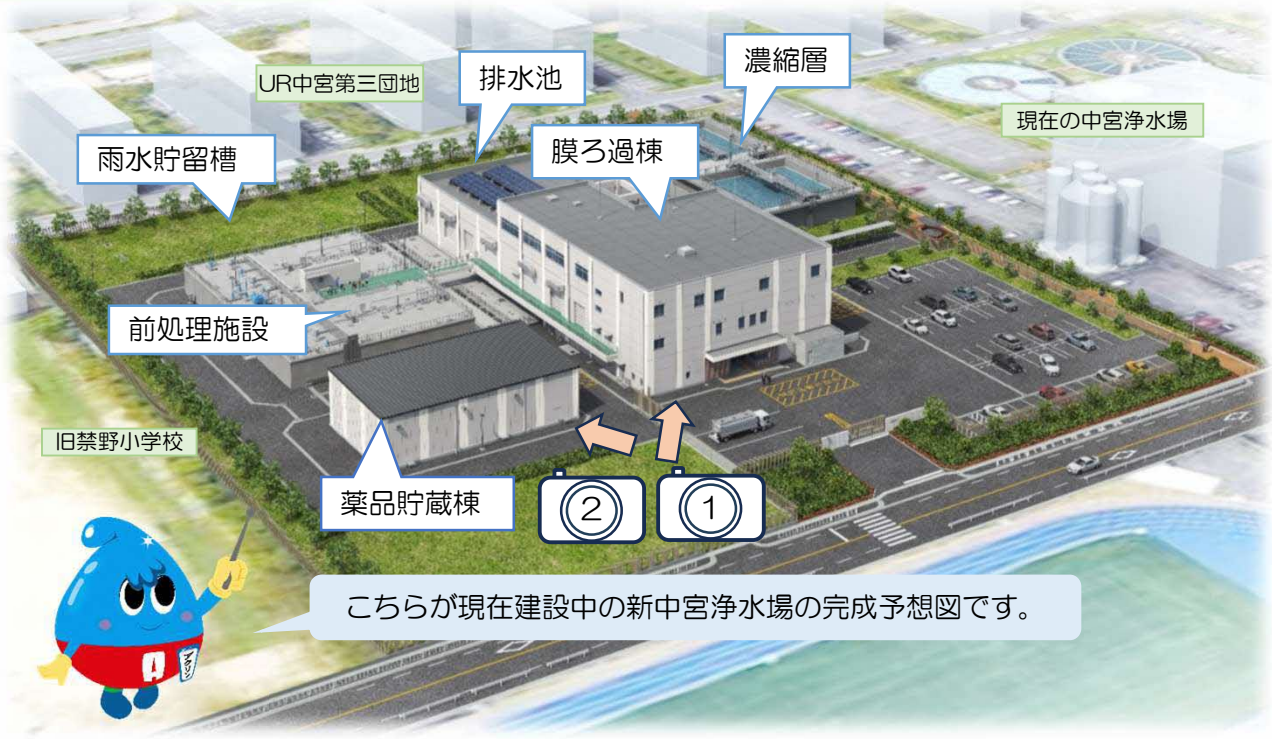
新中宮浄水場通信

令和８年秋号
第１７号
発行：枚方市上下水道局
上下水道部　浄水課
令和８年11月１日

みなさまこんにちは。今回は現地のようすの紹介とPFOS・PFOAについてです。

１．現地のようす

新中宮浄水場　全体完成図



工事のようす

膜ろ過棟と薬品貯蔵棟の建物がほぼ完成しています。現在は内部の「膜ろ過ユニット」などの設備機器の設置工事を進めています。大きな機器を搬入するため、搬入用の開口部分は工事の最後に閉じる予定です。



―膜ろ過棟―
（全体完成図　写真①）



―薬品貯蔵棟―
（全体完成図　写真②）









膜ろ過棟の内部のイメージパースと現在の様子です。
この部屋からは膜ろ過室を見渡すことができるよ。









膜ろ過棟地下1階の様子です。
膜ろ過装置を洗うための薬品の貯蔵タンクや配管が次々と運び込まれています！



2．PFOS・PFOAについて

この広報誌でも何度かご紹介してきましたが、近年話題になっているPFOS及びPFOAについて改めて簡単にお伝えします。
ちなみに、PFASという名称もよく聞くかと思いますが、PFASというのはPFOS・PFOA等の物質類の総称なんです。



PFOS及びPFOAとは

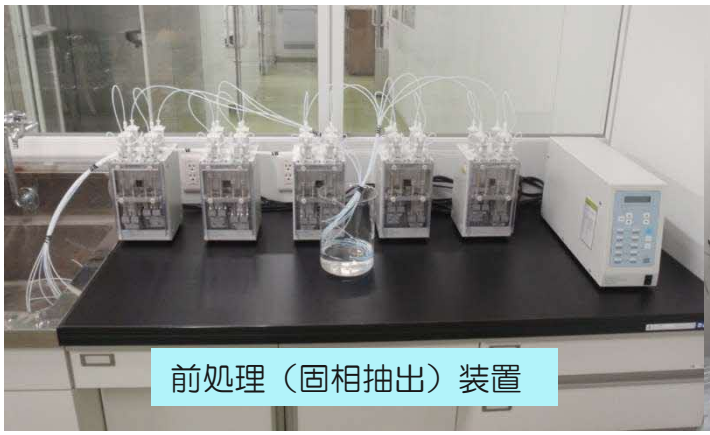
有機フッ素化合物のうち、ペルフルオロアルキル化合物及びポリフルオロアルキル化合物を総称して「PFAS」と呼び、１万種類以上の物質があるとされています。その物性は様々ですが、撥水・撥油性、熱・化学的安定性等の物性を示すものがあり、そのような物質は撥水・撥油剤、界面活性剤、半導体用反射防止剤当の幅広い用途で使用されています。

その中でも、PFOS、PFOAは、幅広い用途で使用されてきました。具体的には、PFOSについては、半導体用反射防止剤・レジスト、金属メッキ処理剤、消泡剤などに、PFOAについては、フッ素ポリマー加工助剤、界面活性剤などに主につかわれてきました。具体例として、フライパン等の撥水・撥油加工に用いられるふっ素樹脂の製造の際にPFOAが使われていた例がありますが、現在は法規制だけでなく、企業の自主的な取り組みにより使用廃止されています。

ですが、PFOS、PFOAには、難溶解性、高蓄積性、長距離移動性という性質があるため、現時点では北極圏などを含め世界的に広く残留しています。

PFOS及びPFOAは令和８年４月１日より水質基準項目に追加されました。
水質基準への追加に伴い、枚方市でも独自に分析ができるよう液体クロマトグラフ質量分析計（LC/MS）を導入しました。





前処理（固相抽出）装置



液体クロマトグラフ質量分析計



枚方市の水道水は淀川から取水し浄水処理をしていますが、淀川の水も浄水後の水も水質基準以下になっているので、安心してご利用いただけます。

水道水におけるPFOS及びPFOAは、ここ数年0.000010mg/L（合算値）前後で推移しており、水質基準の0.000050mg/L（合算値）を下回っています。PFOS及びPFOAを含む最新の水質検査結果は枚方市上下水道局HPにも掲載しています。

３．ご存じですか？高度浄水施設



中宮浄水場から北に約４００ｍのところに「中宮浄水場高度浄水施設」という施設があるのをご存じですか？

高度浄水施設はオゾン処理と活性炭によって、水道水のカビ臭等の元となる物質の除去を行います。

枚方市上下水道局では、平成10年に高度浄水処理を行うようになってから、カビ臭に関する苦情はほとんどありません。中宮浄水場と高度浄水施設で処理工程は完了となり、後は各ご家庭へと送り届けるために春日受水場と田口山配水場へ水が送られていきます。

現在高度浄水施設付近で行っている工事――。
実はこの工事、更新工事の一環なんです！新中宮浄水場でろ過された水を高度浄水施設へ送る大きな水道管を通すため、「縦穴（立坑：たてこう）」を掘っているんです。





中宮浄水場更新用地　令和８年１０月１日撮影

次号（第１８号）のお知らせ

次号の発行は２月ごろを予定しています
掲載記事は以下のとおりです
・現地のようす
・よくあるお問い合わせ
　など

※内容は予告なく変更になる可能性があります



新しいHPをご覧ください
タップでも開きます

【編集後記】

今年より「中宮浄水場通信」の編集を担当いたしますK.Yです。普段は、機械設備の維持管理や修繕・更新の業務に携わっております。

新中宮浄水場では現在、膜ろ過設備をはじめとする機械設備や配管が次々と設置されており、浄水場ができていく様子は大変興味深いものがあります。

この通信を通じて、普段は皆様の目に触れる機会が少ない施設内部の様子や、様々な設備が導入されていく現場の臨場感を、分かりやすくお伝えできればと考えております。これからも安全・安心な水づくりを支える現場の取り組みをお届けしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【K.Y】